

胃がん術後地域連携パス運用要項

<目的>

- 1) 地域での医療機関のがん診療における機能分担を明確化し、がん診療連携パスを用いることによって診療の質の向上を図る。
- 2) 定期的な検査を、重複を避けながら確実に施行し、術後合併症対策と再発の早期発見を図る。

<対象症例および連携パスの種類>

- ・胃がん術後（T1aNO~3,T1bNO~3,T2NO,T3NO）→ 経過観察パス

上記胃がんに対し、治癒切除がなされたものを対象とし、非治癒切除例、重複がんは対象外とする。また、直近の検査で異常がない症例を対象とする。

<運用上の注意点>

- 1) 患者に対する病名告知を原則とする。
- 2) 臨床病期などの取り扱いについては「胃癌取扱い規約第14版」に準じる。
- 3) 本パスは暫定的なものであり適宜改定に努め、地域での最良な治療を目指す。
- 4) 各医療機関で行われた検査データは、次回受診先の連携医療機関に診療情報提供書を添えて、必ず伝達する。

<運用手順>

I. かかりつけ医の先生の初回診療日の確認（予約）

患者さんから「連携パス」導入の同意が得られれば、担当者から初回診療日の確認（予約）の連絡をさせていただきます。予約が必要な場合は、予約日時をお知らせください。

II. かかりつけ医の先生の初回診療時と毎月診療時

初回診療時には、患者さんに以下のものを持参していただきます。

- ・胃がん術後連携パス（私のカルテ）
- ・診療情報提供書
- ・その他の資料

毎月診療時には、投薬と可能な範囲での検査等をお願いします。

「治療スケジュール」を参考に、可能な検査項目について実施していただければ幸いです。その場合、病院での検査を省略します。

血液検査の項目は医療者用パスに記載の項目を含め、測定可能な範囲でお願いいたします。

【血算・生化学】

Hb・WBC・好中球・Plt
T.Bil・AST・ALT
Cr・（TS-1内服の場合：Ccr必須）

【腫瘍マーカー】

CEA・CA19-9・CA125

【その他】

必要に応じて適宜追加

また、患者さんには「胃がん術後 連携パス」（患者様用）をお渡しし、自己チェックで気になることや日常の健康管理で心配なことがあれば、かかりつけ医の先生に相談するように伝えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

Ⅲ. 病院受診の前に

可能でしたら、病院定期受診前の診療時に、診療情報提供書を記載していただき、患者さんにお渡しください。

<バリエーションと対処法>

バリエーション		対処法
再発が疑われるとき	症状がなく、差し迫った命の危険がないと思われるとき	2週間をめぐり、病院受診
	症状がある、または差し迫った命の危険があると思われるとき	電話連絡ののち、病院受診

<その他>

- ・投薬については、基本的にかかりつけ医の先生にお願いしております。
- ・副作用等が疑われるときは、先生のご判断で適宜、投薬の中止・再開をしていただいで結構です。
- ・通院間隔はかかりつけ医の先生のご判断でお願いします。
- ・病院での定期受診は5年目までとしています。
- ・定期受診日以外でも必要があれば病院の受診を患者さんに案内してください。
- ・当院地域連携担当部署は、FAXの授受などを行い。このFAXを用いて事務的な連絡をさせていただきます。

<お問い合わせ先>

病院
医療連携室

TEL:
FAX: